

中世ウェールズ女性の地位—グリフィーズ・アプ・カナンの
娘グウェンシアンを例に

吉賀憲夫

Gwenllian, the Daughter of Gruffudd ap Cynan—
The Women's Position in Welsh Medieval Society

Norio Yoshiga

Abstract: What is Gwenllian like? Gerald of Wales depicted her as a warlike woman in his *Journey through Wales* and one recent study shows she is the author of the *Four Branches of The Mabinogion*. So which is the true Gwenllian, a warlike woman warrior or a wonderful storyteller?

Gwenllian could be compared to Boudica, the warrior queen of the Iceni who led a revolt against the Romans in AD 61. Like Boudica, Gwenllian fought against the Normans but she did not fight because she was aggressive or militant rather it was a Celtic tradition from the age of Boudica that she should fight as a leader of the Welsh army. This suggests that the women's position in Welsh medieval society was not necessarily inferior or submissive but was rather highly regarded.

ブレコンの助祭長であり、ヘンリー2世の外交官でもあったギラルドゥス・カンブレシス（ウェールズのジェラルド）は、彼の著書『ウェールズ紀行』の中で、南ウェールズのウェールズ人君主グリフィーズ・アプ・リースの妻グウェンシアン（1098?-1136）が、夫の留守に、宿敵のノルマン人城主モリス・ド・ロンドレスに戦いを挑み、敗れ、首を刎ねられたと記している。彼は、その記述において、グウェンシアンはアマゾン族の女王ペンテシレイアのように、「馬にまたがり、軍勢の先頭に立って出撃して行った」と記述し、彼女を好戦的な女戦士として描いている。しかし彼は、なぜ彼女が戦うに至ったかという理由は述べていない。伝説によれば、彼女はモリス・ド・ロンドレスの策略に嵌り、やむなく自衛のため戦ったのだという。

ギラルドゥスは、グウェンシアンをペンテシレイアに例えたが、彼女の真の姿は、西暦61年にローマ軍に対し反乱を起こしたイース

ト・アングリアのイケニ族の王妃ブーディッカにむしろ近かった。ブーディッカの蜂起の理由は、夫の死後、彼女の国土を奪い、娘たちを陵辱したローマ軍退役兵士に復讐するためであった。ブーディッカは部族会議で反乱の指導者に選ばれた。ブーディッカに率いられたブリトン人は、最初は大勝利を納めたものの、最後の決戦に敗れ、約 10 万人のブリトン人が殺され、ブーディッカは毒を仰いで自殺したという。

ローマの歴史家ディオ・カッシウスはブーディッカを、男性の着けるトクや、男性の衣装であるチュニックやマントを着て槍を振るう女戦士として、男性的イメージをことさら強調して描いている。一方、歴史家タキトゥスによれば、ブーディッカは最後の決戦にあたり、ブリトン人のひとりひとりに、「ブリトン人は昔からよく女性の指揮の下に戦争をしてきた・・・私は王家の一員ではなく人民のひとりとして、奪われた自由と、鞭で打たれた体と、凌辱された娘の貞節のため、復讐するのである・・・これがひとりの女としての決心である。男らは生き残って奴隷となろうと、勝手である」と訴えたと言う。このタキトゥスの伝えるブーディッカの言葉を信じるなら、ここに表明されているのは、あくまでも女性としての立場からの戦う理由と、復讐への強い意志である。ブーディッカは決して男性の代役ではない。

グウェンシアンはペンテシレイアやブーディッカと同様に軍を率いて戦った。ギラルドゥスは女性が軍を指揮するということに興味をもったのかもしれないが、ブーディッカの言葉にみられるように、ブリトン人は、昔からよく女性の指揮の下に戦争をしてきたのであった。それはひとつの伝統であり、それは 1000 年以上も後のグウェンシアンにその力を及ぼしたのである。ブーディッカとグウェンシアンには、ブリトン人としての同じ血が流れているのは言うまでもない。

グウェンシアンが軍を指揮したのは、彼女の好戦的な個性による「個人」の問題ではなく、ブリトン人の「伝統」によるものと言ってもよいが、それはまた当時のウェールズ社会における女性の高い社会的地位と無関係ではない。男女の権利に関しては、当時のウェールズの法律は、他の国々の法律よりも、はるかに男女平等に近いものを実現していた。ハウエル・ザーの法として知られるウェールズの法律や、「マビノギ」という中世ウェールズ英雄物語に、このことがはっきりと見て取れる。したがって中世のウェールズでは、女性や妻の立場は必ずしも劣悪なものでも、また服従的なものでもなく、かなりの主導